

## 重点化する取り組み（案）

少子高齢化が急速に進展し、厳しい財政状況が予測される状況においては、市民、市民団体、事業者、行政がまちづくりの担い手となって、少子高齢化・人口減少に対応するため、住宅都市としての枚方市の特性を生かしながら効率的・効果的な施策を展開し、まちの魅力向上を図っていく必要があります。

総合計画基本構想（試案）におけるまちづくりの基本姿勢である「人口減少社会においても発展し続けるまちづくり」を進めるため、計画の基本的な考え方である「選択と集中」の視点に基づき、計画期間12年間における「重点化する取り組み」を設定します。

### 【考え方】

- ・今後、少子高齢化・人口減少に伴う税収減などにより厳しい財政状況が予測されることから、新たな総合計画では、市民等との協働のつながりを各部門に散りばめていくことが必要である。 **意見4**
- ・今後の重要課題である急速な少子高齢化・人口減少の進展に対応するため、住宅都市としての枚方市の特性を生かしながら、人口減少の傾向に歯止めをかけるための効果的な取り組みとする。 **意見18**

参考資料3 『「重点化する取り組み」に係る委員意見一覧』における関係する意見の番号を付しています。

## 3つの重点化する取り組み項目

### 1 安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できるまちをつくる

- 妊娠・出産から、子育て期まで切れ目なく、子どもを安心して産み育てることができる環境づくりを進める。
- 未来の担い手である子どもたちの豊かな人間性や確かな学力を伸ばし、「生きる力」を育む教育を推進する。

#### 【考え方】

- ・安心して妊娠・出産・子育てができる環境をつくることで、枚方市で子どもを産み育てたいと思う人を呼び込むことにつながる。 **意見 10・20**
- ・将来のまちづくりの担い手は子どもたちであるため、「子育て」「教育」の取り組みは重要である。今後、高齢者がますます増えてくる時代となるが、子どもが核となることで、周りの人も関心をもち、助け合いの気持ちを醸成していくことにつながる。 **意見 11**
- ・枚方市の特性がベッドタウンということを踏まえ、子育て世帯が住みたいと思えるまち、子育てがしやすいまちにすることが必要である。 **意見 13**

### 2 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる

- 世代に関わらず元気なうちから、心身の健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸を図る。
- 「健康医療都市ひらかたコンソーシアム（共同事業体）」による多彩な連携事業などを通じて、市民の健康増進や地域医療の充実に取り組む。

#### 【考え方】

- ・いきいきと暮らしていくためには、健康づくりに関する施策は重要であり、特に、病気になる前の取り組みが大切である。 **意見 14**
- ・枚方市は医療体制が充実しているので、その強みを生かし、保健、健康、医療分野を積極的に打ち出すべきである。 **意見 27**
- ・予防医療を積極的に行っていくことで、健康寿命を伸ばし医療費を削減すべきである。そうすることで、削減分の予算を別の施策に活用していくことが可能となる。 **意見 28**

### 3 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる

- 文化芸術にふれる機会の充実に図り、市民の活発な文化芸術活動を促進する。
- 枚方市駅周辺の再整備により、まちの賑わい創出に取り組む。
- 市内の移動をスムーズにするなど、人々の交流促進や市内産業の活性化を図る。

#### 【考え方】

- ・重点化する取り組みには枚方市の地域性が生かされるべきであり、地域資源である文化や歴史、教育といったものを生かしていく必要がある。 **意見 22・25**
- ・人口減少が進む中、人を呼び込むような魅力あるまちにしていくためには、枚方市の地域資源である自然環境やまち並みの景観など、中心市街地を含めた市域の美しい環境が整うまちづくりを進めるべきである。 **意見 16**
- ・道路交通や公共交通といった交通政策の充実は、産業育成や雇用創出につながることから、人口減少社会において重要な視点である。 **意見 31**

## 「まちづくりワークショップ報告書」における提案

### ≪提案の視点≫

- 枚方市の特性（良いところなど）を踏まえ、何を発信していけばよいか。
- 分野別での検討を踏まえ、今後、何を重点化し、市の特徴をつくっていけばよいか。

### 枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）の提案

#### ○福祉の充実したまち

今後、より高齢化が進んでいく中で、高齢者に対する福祉のほか、障害者など誰にでもやさしいまちであるべきで、枚方市が福祉のまちと言われるようになるべきである。

#### ○子育て・教育が充実したまち

少子高齢化が進む中、子どもを安心して産み育てられ、教育に強いまちであるべきで、小中学生への自然教育や障害をもつ子どもへの教育を大切にしていくとともに、誰もが生涯、生きがいをもって学べるまちとして発信していくべきである。

#### ○健やかに暮らせるまち

枚方市の特徴である「医療施設や医療系大学」を活用しながら、健康寿命を延ばす取り組みを進めるなど、健やかに暮らせるまちとして特徴をつくっていくべきである。

#### ○歴史・文化芸術のまち

恵まれた市内の歴史遺産などを生かし、他市の人々が訪れる観光名所のほか、市の花“菊”をよりPRしていくこと、また、子どもたちに枚方市の歴史を伝えていくことなどにより、歴史・文化芸術のまちとして発信していくべきである。

#### ○世代間交流や地域連携が活発なまち

枚方市の特徴である「学生のまち」を生かし、地域と大学の連携など高齢者から若い世代までの世代間交流が活発になされ、校区コミュニティなどの活動が活発なまちと言われるようになるべきである。

#### ○住みたいまち・住みやすいまち

枚方市の特徴である「多様性があり、全体的にバランスが良いこと」を生かしながら、豊かな自然、安全安心、交通の利便性など様々な分野で総合的に取り組むとともに、市のまちづくりに対し市民からの提案が生かされる機会を充実していくことなどにより、「住みたい・住みやすいまち」を発信していくべきである。